

平成28年2月25日

## 第3回 南相馬市総合教育会議

南 相 馬 市

第3回 南相馬市総合教育会議 会議録

- 1 開催日 平成28年2月25日(木)
- 2 場 所 市役所 東庁舎2階 第3会議室
- 3 会議時間 開会 午前10時00分  
閉会 午前11時35分
- 4 出席者  
市 長 桜井 勝延  
教育長 阿部 貞康  
教育長職務代理者 大石 力彌  
委 員 宮本 晴一  
委 員 高野 恵以子  
委 員 渡辺 金作
- 5 欠席者(0名)
- 6 説明のため出席した者の職氏名  
(市長部局)  
復興企画部長 安部 克己 次長兼企画課長 植松 宏行  
課長補佐兼企画係長 涌井 秀之  
(教育委員会事務局)  
教育委員会事務局長 小林 総一郎 次長兼教育総務課長 西谷地 勝利  
参事兼学校教育課長 鈴木 克哉 課長補佐兼総務係長 大石 雄彦  
施設管理係長 志賀 和浩
- 7 傍聴者(2名)
- 8 本日の会議に付した協議事項等  
(1) 南相馬市教育振興基本計画に係る実施計画について  
(2) その他

【配布資料】

資料1 南相馬市教育振興基本計画に係る実施計画

企画課長

ただいまから、第3回目の南相馬市総合教育会議を開催させていただきます。

はじめに市長よりご挨拶を申し上げます。

市長

第3回目の南相馬市総合教育会議開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様におかれまして、昨日、一昨日と杉並区で研修をしていただき、先進地の事例を学んでこられたことと思います。本日、お忙しい中時間を作っていただきましたが、教育振興基本計画実施計画案について議論をいただき、定めていきたいと思っておりますので、ご審議のほどよろしくお願いたします。

企画課長

それではこれより協議に入ります。

市長が議長となり協議を進めていただきます。よろしくお願いたします。

市長

それでは、進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いたします。

お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

南相馬市教育振興基本計画に係る実施計画について、担当課より説明をお願いします。  
教育総務課長

(資料に基づき、計画案について説明)

市長

ただいま説明のあった教育振興基本計画に係る実施計画の概要について、皆さんから意見をいただきたいと思っております。

大石教育長職務代理人

教育振興基本計画は平成27年度から10年間のスパンで考えられたものでありますが、実施計画について、平成27年度はもう終わりだからやむを得ないとは思いますが、平成28年度から平成30年度の3年間に区切った狙いはどのようなところにあるでしょうか。

教育総務課長

平成27年度につきましては、ご理解をいただき申し訳ございません。

実施計画の計画期間を平成28年度からの3年間に設定したことにつきましては、市の復興総合計画の実施計画と同じでございますが、3年間という短いスパンの中で、実施した事業の成果を評価し必要に応じて次年度の事業の見直しをかけるなど、より実効性を高めていくために3年間という短い計画期間を設定し、毎年度ローリングをしていくものであります。

○大石教育長職務代理人

骨組みに新たに手を加えるということではなくて、部分的に修正できるものは修正しながら進んでいこうという狙いがあるということで理解しました。

その上で、実施計画に、「全国学力・学習状況調査の実施と自校採点」とあり、毎年実施するということだと思っておりますが、実施後は内容をすぐに分析・検討して、すかさず授業・指導の改善に生かしていけるようにしていただきたい。前年度の結果がこうだから今年度はこうしようでは間延びしすぎてしまいます。この実施計画に基づき、今後

どのように実施されていくのでしょうか。

○学校教育課長

今年度、全国学力・学習状況調査と自校採点を実施しました。やり方としては、本来は文部科学省へ送付しますが、送付する前にコピーをとり、各学校で採点し、その結果を元に学校内で課題を共有化し、授業の改善に取り組みとういうものです。また、市全体の学力を向上させるため、各学校の結果を集め、市全体で共有化すべき課題についての分析・検討も行うものです。

○大石教育長職務代理人

検査を行い、結果を送り、返ってくるのが半年程度もかかってしまえば、そこから分析をして授業を改善しようとしても年度内には間に合わない。自校採点を行ったらずくに各学校の結果を集め、素早く分析をし、1か月後くらいには対策について各学校に返せるようにしてほしい。

○学校教育課長

今年度は、4月に検査を実施し、5月の第3週は小学校の運動会が多かったことから、5月の最後の週に総会を開催しました。新年度もきちんとやっていきたいと考えております。

○大石教育長職務代理人

確かな学力を身に付けさせるためには基本が一番大事です。手遅れにならないようにお願いします。

○市長

何年生の時に何を学ぶかというよりも、子どもたちにどうやって学ぶことの動機付けをしていくの方が重要です。学力を向上させるためには、子ども達が学ぼうとする意識や覚えようとする意識を先生方が動機付けられるかどうか全てではないかと思えます。

○学校教育課長

確かにそのとおりだと思います。小さいうちは学校の先生がいるからということで受け身的に学びますが、ある程度成長すると何のために学ぶのかという学ぶ意義について疑問を持つ子供もいます。最近では文部科学省の方でも、生活の中の問題、生きる上で必要だから学んでいきましょうという動きになっています。

○市長

考えながらスポーツをするということも学力向上に繋がると考えています。子供なりに考えさせるということ、学校の中でも意識的に取り入れられれば良いと思います。

○大石教育長職務代理人

失敗体験が考えるきっかけにつながる場所もあると思います。スポーツでも勉強でも、失敗した時に原因をすぐに振り返ることが大事です。

以前は、そろばんや掛け算の九九などは、かなり長い時間をかけて、反復を繰り返して覚えさせていました。子供たちにとって、反復によって身に付けさせることが必要な時期というものがありますが、現在は授業数の減少等により、簡単な問題を繰り返し解くことに時間を割くことがなくなっています。

そのため、反復の学習を家庭で行わせるのも良いのではないかと考えている。考えさせる宿題を家庭でやらせても難しいと思うので、家庭では反復させる宿題をやらせればお父さんお母さんも安心して協力できるのではないのでしょうか。

○市長

学校で歌をCDにして、子ども達に覚えさせるのも良いのではないのでしょうか。単純

な繰り返しでは面白くないので、ある程度成長して大人びた学年に対しては、リズムや音楽などの面白さを加えた反復をさせた方が良いと思います。

○大石教育長職務代理人

繰り返しの効用を大切にしていきたいと思います。

○市長

それは絶対に必要です。日本では九九までですが、インドはおそらく世界的に数学が一番進んでいる国ですが、 $19 \times 19$ まで暗算でやらせています。本来であればそれくらいのことをやらせていても良いと思います。

学校の先生も、義務的に教えるのではなく、子どもたちの年代に応じた工夫をしてほしいです。教えることの楽しさや喜びがないと、教える方も疲れてしまうし、教えられ方も反発が生まれてしまうと思います。

その他、知・徳・体についてそれぞれ挙げられていると思いますが、総合的に見て意見はありますか。

○渡辺委員

知・徳・体の部分については、総合的に見て十分だと思います。考えるという点で話をしますが、先ほどからお話があるように、考えるということは一番大事ですが、教科書の内容を見ると、教えなければならないことがたくさんあります。先生方はその中から学習内容の精選をしなければなりません、中学校では部活動があり、学習内容を精選する時間が取れない状況です。そのために、面白くない授業で終わってしまうということもあります。子供たちの学力を向上させるためには面白い授業にしなければならないということは、現場の先生たちもわかっていると思います。計画に書かれている取組を通して、考える授業というものを実施することが大事であり、それが全国レベルの学力につながっていくのであろうと考えます。授業が楽しくなければ、全国レベルの学力には到達しないと思います。

○市長

スーパーティーチャー招へい事業というものがありますが、子ども達への教え方を先生に指導するという取組があってもよいのではないのでしょうか。先生方個人が努力しなければならなかった部分がある程度簡略化されると思いますし、確立された方法論で教えていった方が効率的です。

学力アップも人間力アップであり、バランスが大事だと思います。学力だけあってもいいわけではなく、体力もしっかりついて体も動かせるということが社会に通じる人間を育てるためには大事です。野馬追を含めた相馬藩の歴史についても、小学校高学年から中学校くらいで教えていければいいと思います。そこには当然「徳」育も入ってきます。藩の立て直しは、正に体と頭を使わなければ成し得なかったことです。

○大石教育長職務代理人

地域文化伝承の推進とありますが、野馬追などは自分の目で見て雰囲気を感じ取れば、その素晴らしさについて子どもなりに吸収するものは多々あると思います。報徳精神については、10月に全国報徳サミットが本市で行われるので、小学校で実施している報徳仕法副読本活用事業についても、市で後押しをして、小学生たちが報徳サミットに発表や催し物などで参加できればいいと思います。

○学校教育課長

28年度教育課程の説明会の時に、10月に全国報徳サミットがあるということで、力を入れてほしい旨お願いをしたところです。報徳サミットの内容がはっきりわかった段階で、具体的に進めていきたいと思います。

○渡辺委員

そういうことを体験した子は、後々まで心に残り、いろんな部分でいい影響を与えることになると思います。

○学校教育課長

10周年記念式典でも子供たちに発表の機会を与えていただきました。子供たちにとって一生に残るいい思い出になったと思います。同じように取り組んでまいりたいです。

○市長

子ども達の発表について、あそこまで夢を描いているのはすごいことだと思います。若いときに夢を持って自分の道を進んでいくことが大事です。勉強しながらも夢を描けるようにしていくことにより、子ども達が自ら努力し、学力アップにつながっていくものと考えます。キャリア教育といいますか、将来的なことを考えるということについては計画に位置付けされているでしょうか。

教育総務課長

キャリア教育については、「社会に入って自分は世の中の役に立つ人間にならなければならない」という切り口で、社会を支えるための資質・力を養うという表現にしています。中身は職業訓練などであり、自分が社会を支えるという自覚を持つという意味合いで位置付けています。

○市長

みんなそれぞれが社会の中では主人公だと考えています。人生の主人公であり続けるという意識を持ち続けられずいぶん変わってくると思います。職業による成功や失敗というものではなく、どんな職業も成功は成功であり、子供時代にそういうことをしっかり教え、自分の人生を歩んでいくということに自覚してもらえるとありがたいです。

○高野委員

「徳」の部分に関することだが、いじめ問題や子供への虐待、親への暴力が多く見られます。小さいころからの道德教育が大切であり、重点的に取り組んでいただきたいです。

○市長

今回の震災では、日本の先進事例を築くのではないかと思うほど、それぞれが色々な生き方を選択しました。例えば、事業者の方々が避難したことにより、ガソリンスタンドで給油ができなくなったため役所の職員が代わりに給油を行ったり、漏水対策を職員自らがやらなければいけなくなったりしていました。そういう意味からすると、命の尊厳というものを教育の中でしっかりと位置付けてほしいです。例えば移民の問題にもありますが、相手を自分より下の民族と見て差別するようなことが、教室の中でも同じように見られており、また親に対する関心がなくなり親を殺めてしまうような事件もありました。命そのものが平等という認識が無くなりつつあるように思われますので、学校教育の中で命というものはみな平等だということをしっかり位置付ける必要があります。命というものは親からしかもらえないわけですから、産んでくれた親への感謝を共有認識する必要があると思います。

○学校教育課長

虐待や親への暴力については、社会・学校・福祉関係全体で取り組んで行く必要があると考えます。

○市長

シングルマザーと内縁の夫で子どもを虐待する事件が多く見られます。自分の子供ではないから邪魔に見えてしまうのかもしれないが、自分に対する尊厳もなく、欲望のま

ま動いているように見えます。これについては道徳教育どうこうではなく、社会生活をする上で最低限のことは教えなければなりません。

○渡辺委員

テレビで大家族を取り上げていましたが、出産現場を子供たちに見せたり、小遣いを自分で管理させたりしているところを見て大変感動しました。命の大切さや生命の尊重を知る機会は生活の中にたくさんあり、学校で教わるものだけが道徳教育ではないと感じました。小さい頃からの子供に対する教えが家庭できちんとできていれば、学校で教えることもないくらいです。小さい時から親が子供に考えさせていくことが大事であり、友達に対する関わり方についても同じであって、親が教えられないために、先生たちが親に代わって教えているような状況であります。

○市長

学校で規律を守るということは教えていかなければなりません。我々の頃は子たくさんだったために子供達だけの社会というものがありませんでしたが、現在は少子化により、この地域で子ども達だけの社会というものは無くなってしまいました。平成22年度の南相馬市の人口ピラミッドと現在の人口ピラミッドを比べて見ると極端に歪んでいます。女性が極端に少なくなっており、何らかの手を入れないとこの地域社会は歪んでしまうと感じています。今後、高齢者の人口がどっと増えていくため、支える子供たちが苦しくなっていくと思います。学校教育だけではありませんが、教育というものに対する意識を強く持っていないと、地域社会を維持・発展していくことが厳しくなる時間も差し迫ってくるように思います。

○宮本委員

この資料はどのように市民に提示するのでしょうか。

○教育総務課長

家庭や地域と一緒に支えていくことが大事ですので、教育振興基本計画の概要版を作成し、実施計画のプロジェクト版と一緒に提示し、どのような事業を展開していくかを示そうと考えています。

○宮本委員

一緒に提示するのであれば、色分けをするなど基本計画と実施計画のつながりについて、市民の皆様が見て分かり易いようにしてほしい。

また、できるだけこの資料を早く作って提示していただきたい。

○教育総務課長

一覧表は全ての事業を掲載させたものですので、お示しする際は、プロジェクトという分かり易い形でお示ししてまいります。また、4月以降のなるべく早い時期に、平成28年度の主要事業もお示ししてまいります。さらに、現在作成している教育委員会だよりにおいて、平成28年度の主要事業をお示ししてまいります。

○教育長

平成27年度に実施した事業とその成果・課題を示した上で、ローリングをかけながら平成28年度からの実施計画を作っているということを示さないと、今どんなことをやっているのか、それを平成28年度にどのように生かしていくのかということがわかりません。

南相馬市復興総合計画が上位計画であり、それを踏まえた部門別計画として教育振興基本計画を定めて行きますが、市民にお示しする際は、「基本計画はこういうもので、実施計画でやっていくことはこういうもので、当面重点的に取り組むものはこの3つです」という整理をするとともに、目標を1つに置きながらそれぞれの課で事業を実施すると

いうことについて、市民が見て分かり易い見せ方にすることが大事です。

○渡辺委員

市としてこういう風に動いています、進めていますということについて、保護者の皆さんがぱっと見てわかるようなものを作っていただきたいです。細かいところについては担当課に質問してもらえばよいと思います。普通の家庭の方は忙しく、たくさん書かれていても見てもらえないと思います。苦勞をして計画を作っているわけですので、皆さんに見ていただけるような工夫をしていただきたいです。

○市長

せっかく作るのそのような努力をしていただきたい。

○教育長

学校、地域、家庭の皆で子ども達の教育に取り組んでいくことについて、こちらの思いをうまく伝えないと相手方に受け取っていただけませんので、お願いする立場として見やすく、わかりやすいものを作ってほしいです。

○市長

人口ピラミッドの話に戻りますが、震災前と比較すれば極端にひどくなっているように見えますが、震災直後と比べれば年々劇的に回復しています。極論になりますが、シングルマザーを誘致するなどして女性と子供の数を増やせば、さらに回復すると思います。被災地の中ではすごく改善しています。

○大石教育長職務代理者

子育て環境の整備とありますが、待機児童が増えてきています。保育所、幼稚園の収容力のこともありますが、肝心の保育士さんが確保できずに開けられないところもあると思います。ここに、力を入れていかなければならないと思います。

○市長

去年の今頃は待機児童が40人くらいおりました。あづま保育園を開ければ待機児童が減ると思いましたが、また増え始めて現在90人弱くらいになっています。子供の数が増えているという意味では、良い傾向であるとも思われます。幼保を無料化していることもありますし、徐々に子供を産み育てられる環境について、皆さんが少しずつ安心感を持ち始めているということだと思います。現在、一番多いのは0歳児から2歳児で、こんなにいるのかと驚かれるほどです。正採用として保育士を確保して、さくらい保育園を4月に再開します。それにより、待機児童は0にはならないと思いますが、努力してかなりの部分までは行くと思います。0歳児3人に対して職員1人を配置しなければならぬため、そこが一番厳しく責任も問われることから、現在、保育士の確保に向けて努力しているところです。

学校によっては全学年で5～60人くらいのところもあります。一方で、待機児童が90人弱いるという状況を考えますと、それくらい産み育てる環境についてお母さん方がこちらに戻ってきてもいいかなと思始めている状況ですので、我々はそれを受け入れられるような体制づくりに取り組んで行かなければなりません。このような待機児童の多さや、子どもの増え方について東京で話をすると驚かれます。南相馬市がこのような状況にあるということは全く報道されず、復旧できていないということがメインに報道されます。現場は、人手を確保しないと待機児童を受け入れられないような状況になっているところもあるということをおわかってもらいたいです。

教育に金をつぎ込まないと人も育ちませんし、地域も良くなりません。国がやらなくても南相馬市が積極的に財源を手当てしていき、後から国に請求するなどして取り組んでいかなければなりません。財源については、教育に一番つぎ込んでいきたいと考えて



います。

○渡辺委員

研修に行かせていただき大変勉強になりました。杉並区教育長がお話をされましたが、原ノ町駅前の図書館について女性区議会議員の方が大変褒められていて、杉並区にもこのような図書館を作ってほしいとおっしゃっていたようです。私も大変魅力的な図書館だと思います。教育のためにお金をというお話もありましたので、これからの学校づくりは建物も含めて、子ども達が中に入りたいと思えるものにしてほしいです。

○市長

文部科学省の事務次官の土屋さんという方からも、遠慮なく言ってくれと言われていきますので、定期的に報告しています。逆に言いますと、幼保の無料化をやれるところはあまりなく、文部科学省でもやりたくても全国的にやろうとすると財源が1兆円単位で必要になるため、財務省から財源が手当てされない状況です。

小高区については、今後、小高区の学校で教育を受けたいと思わせないと、帰ってくる子供たちも増えていきません。そういう学校づくりを最優先にしていきたいと思っています。少人数になってしまうからこそ、魅力的ある学校にしていかなければなりません。

○渡辺委員

魅力的な学校であれば、子供たちの気持ちも違うと思います。

○教育長

図書館だけでもきれいにすれば違いを感じるとと思います。小高小学校もまずは図書館をメインにきれいにしながら、子ども達に見てもらい、この学校はいいなと感じてもらえるようにしたいです。

なお、校庭は芝生化の工事を進めています。子供と保護者、地域の方が協力して管理してもらえるようにしていきます。

○大石教育長職務代理者

図書館に力を入れ、地域の方が活用できる仕組みにし、学校に顔を出してもらえる機会を多くし、学校行事のお手伝いを地域の人にしてもらうなど、地域の人達で学校を見守るような仕組みにしていきたいです。

○市長

杉並区は、この1年間で1万人くらい人口が増えています。地価が相対的に下がっていて、人口の流入が進んでいるようです。待機児童は南相馬市より少なく、子育て支援にも力を入れています。

南相馬市では、保育士の確保に向け、保育士の宿舎に対する支援を実施します。生活にゆとりができることが大切だと思います。幼保を無料化することにより一世帯あたりの可処分所得が増えますし、宿舎の手当てをすることにより保育士さん達の可処分所得も増えます。今後とも、子育て支援について努力をしていきたいと考えています。

最後に、先ほど宮本委員の方からもありましたが、計画の示し方について、市民向けにはもっとわかりやすい形で提供できるようにしてください。

企画課長

以上をもちまして、第3回総合教育会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

午前11時35分 閉会